No.444

広報 みぶ

8年 5月

新緑に包まれた総合公園

新緑に包まれた中を、笑顔でいっぱいの子どもたちを乗せたロードトレイン壬雷号が走り、紺碧の空には、春風に誘われて気持ちよさそうに鯉のぼりが泳ぎまわる総合公園。

総合公園は、平成12年に開催予定の「第17回全国都市緑化フェア」の会場に指定されたことに伴い、今後の整備は県の事業として行われます。

発行　壬生町役場　編集 総務部企画財政課　毎月15日発行　〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町通町12番22号　☎0282-82-1234

都市・みぶ』タート

来るべき21世紀を目前にして、本町のまちづくりには、これまで以上に幅広い視点での総合的な施策の展開、質の高い行政サービスの提供が求められています。

町では、このような状況を踏まえ、緑豊かな自然環境と住民一人ひとりの夢を大切にしながら、新鮮で活力ある住民のライフスタイルの実現を目指し、町の将来都市像を『夢と活力にあふれた緑園都市・みぶ』とする「壬生町第４次総合振興計画」を策定、本年度から計画を推進してまいります。

郷土の美しい自然と伝統を守りつつ、緑豊かな公園都市の創生と都市的利便性を兼ね備えたまちづくりを町民の皆さまと一体となって進めていきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

振興計画の基本理念

本町の住民生活の充実と行政施策の推進のために、次の基本理念のもとに様々な施策を展開していきます。

壬生町の住民誰もが住みなれた地域や場所で、安心していつまでも生活を営めるよう、行政と住民とが共通の理念のもとに行政は住民活動を最大限支援し、住民は常に主体的に行動を起こします。そして、一人ひとりの夢とあふれんばかりの緑を大切にし、いきいきとした楽しい生活の実現をめざします。

振興計画の重点施策

本計画の基本理念にもとづいて、次の３つを重点施策と位置付け、積極的に推進していきます。

１．みぶの夢・あこがれプロジェクト

福祉、生涯学習、コミュニティの３つから構成されるプロジェクトです。住民の最も身近な日常生活に関連するプロジェクトで、住民と行政が相互の信頼関係のなかから安心してささえあい、そしてときめきに満ちた生活の実現をめざします。

２．みぶの活力・きらめきプロジェクト

道路整備、産業基盤、生活環境整備の３つから構成されるプロジェクトです。いずれも長期的な事業ですが、新しい壬生の発展に向けてのプロジェクトで、あらたなきらめきを持ったまちの実現をめざします。

３．みぶの緑・さわやかプロジェクト

公園整備、環境保全、総合行政の推進の３つから構成されるプロジェクトです。さわやかな自然環境と人間関係の形成を図るプロジェクトで、あふれんばかりの緑のなかで、さまざまな価値観をもつ人たちが個人の意志に基づいたライフスタイルをおくれるまちをめざします。

振興計画の役割

本計画は基本構想・基本計画、および実施計画の３つの内容によって構成されます。

■**基本構想**は、本町のまちづくりの目標とそれを実現するためのあらましを定めた長期ビジョンであり、まちづくりを進めていく上で必要な最小限の約束ごとをまとめたものです。

■**基本計画**は、基本構想を実現するための約束ごとに基づいた施策の展開を定めた中期プログラムです。

■**実施計画**は、基本計画の施策を短期的に着実かつ効果的に実現するための具体的な計画を示したものです。

※本計画の計画期間は次のとおりです。

［基本構想］
平成８年度から平成17年度の10年間

［基本計画］
平成８年度から平成12年度の５年間

［実施計画］
２年間のローリング方式により毎年度見直し

振興計画の考え方

本計画は、住民生活の20世紀と21世紀をとり結ぶ計画です。これまでの住民生活を思い起こしながら、新しい時代（世紀）の望ましい生活を模索しつつ、実現させていくための計画です。

本町を取り巻く社会環境は激動しています。未だ不確定な要素や条件が多いなか、望ましい生活を実現するために最低限必要なことは何か、そして大事に守り育てていくものは何かということを念頭におき、本計画を策定しました。

まちの将来像

以上の基本理念のもとに行われるまちづくりによって、壬生町の将来都市像を次のように設定します。

『夢と活力にあふれた緑園都市・みぶ』

この将来像は次のような内容によって構成されます。

1. 人と自然が共生する緑豊かな公園都市
2. 自然の理にのっとった快適な環境都市
3. 支えあいの暮らしが実現する健康福祉都市
4. 歴史と自然に学ぶ教育文化都市
5. 地域に根ざした活力ある自立産業都市
6. 住民の発想と連携による住民自治のまち

～あなたとわたしでつくる夢のまちプラン～

『夢と活力にあふれた緑園

壬生町第４次総合振興計画ス

まちづくりの６つの施策

①人と自然が共生する緑豊かな公園都市をめざして

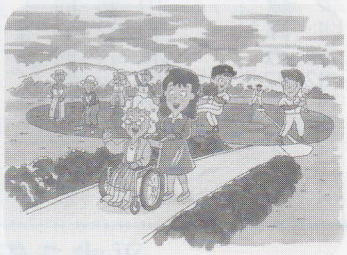
住民の日常生活は自然と密接に営まれています。しかし、いつしか日常生活と自分たちを取り巻く自然とがかけ離れてしまうようになってしまいました。

今ある緑を守り、新しい緑を創出し、住民生活と自然とが密接に関連する公園都市づくりを進めます。

②自然の理にのっとった快適な環境都市をめざして

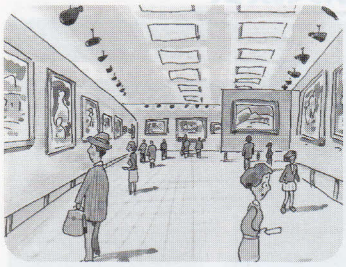
快適な暮らしの実現は住民生活のひとつの目標です。快適な暮らしの追及のために、自然を犠牲にすることなく、自然の理をよく理解し、自然の理にのっとった環境都市づくりを進めます。

③支えあいの暮らしが実現する健康福祉都市をめざして



お互いに支えあう暮らしは昔から地域で一般に行われ、困りごとなどは、家族や近所で話し合って解決してきました。

地域みんなが一人ひとりの意思を尊重しあい、支えあいながら生活を続けられる健康福祉のまちづくりを進めます。



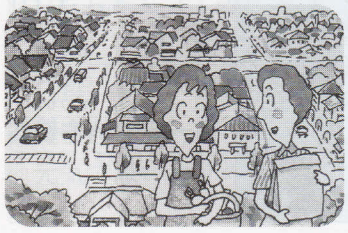
④歴史と自然に学ぶ教育文化都市をめざして

本町は平地林や河川などの恵まれた自然や、輝かしい歴史と文化を育んできた町です。

この歴史と文化や自然を生きた教材として積極的にとりあげ、子どもからお年寄りまでの住民誰もがいきいきと学習できるまちづくりを進めます。

⑤地域に根ざした活力ある自立産業都市をめざして

町内の企業、商店、農業などは地域の中で貴重で欠かすことのできない存在です。これら地域産業が生産、雇用、消費などの各分野で地域と密接に関連した自立産業都市づくりを進めます。



⑥住民の発想と連帯による住民自治のまちをめざして

住民が何か新しいことに挑戦したり、気付いたりしたときに、行政のほんのちょっとした支援やアドバイスによって住民が主体となって行動できるように、住民の自立した活動を最大限支援し、連帯感あふれる住民自治のまちづくりを進めます。

ご協力ありがとうございました

560トンのゴミが資源化（減量）へ

町では、急増するゴミ問題に対応するため、ゴミの減量化・資源化を積極的に推進しています。その一環として資源ゴミ回収報償金交付要綱を制定し、町民総参加によるゴミ減量化運動を実施しています。

この運動に皆さまのご協力をいただき、昨年度1年間で約560トンのゴミを資源化（減量）並びに約15万7千本のペットボトルを回収することができました。

皆さんの出し方しだいで、ゴミが資源として生かされます。不用となった新聞、雑誌、段ボール類、ペットボトルなどは、ゴミとして出さないで資源ゴミ回収や古紙回収業者へ出すよう心がけてください。

資源ゴミ回収実績（57団体）

☆回収内訳

可燃物類	
新聞紙	303・3トン
雑誌	97・3トン
ダンボール類	30・8トン
布類	2・7トン
小計	434・1トン

不燃物類	
ビン類	117・0トン
鉄くず	5・6トン
アルミ・銅類	3・3トン
小計	125・9トン
合計	560・0トン

ペットボトル回収実績（57団体）

☆回収量　156,864本

育成会も資源ゴミ回収に一役(緑町三・四丁目)

資源ゴミ回収報償金交付制度

資源ゴミ・ペットボトル回収にご協力ください

町では、資源ゴミ回収運動に協力していただいた団体に対して報償金を交付しています。あなたの地区でも始めてみませんか。

1回の資源ゴミ回収で500kg以上を共同集荷し、回収業者に売却した団体には、回収重量1kgにつき5円と1回の回収で3千円の報償金を交付します。また、ペットボトルを1回の回収で200本以上を共同集荷した団体に対し、1本につき5円の報償金を交付します。

【問合せ先】

＊町民生部保健課☎82―1234

＊清掃センター☎82―3424

平成7年度　団体別資源ゴミ・ペットボトル回収実績表

登録番号	団体名	資源ごみ回収量	ペットボトル回収量
1	下横町自治会	21,540kg	本
2	中表町自治会	4,440	1,063
3	万町自治会	13,360	3,515
4	ひばりヶ丘育成会	5,778	
5	いずみ育成会	9,544	1,195
6	いずみ野球部	10,239	
7	若草育成会	4,435	712
8	雇用促進住宅育成会	4,708	
9	駅東子供育成会	16,362	
10	さくらんぼ共同保育園を育てる会	6,325	1,914
11	緑町3、4丁目育成会	4,146	
12	上表町自治会	21,446	3,526
13	西高野老人クラブ	7,237	
14	上通町自治会	10,776	2,196
15	緑町一丁目自治会	13,384	5,500
16	緑町一丁目育成会	5,695	900
17	若草育成会	1,627	300
18	六美町南部第一育成会	10,189	
19	六美北部育成会	7,490	430
20	やすづか保育園	3,868	2,175
21	六美町南部第二育成会	13,213	
22	城南婦人会	4,725	800
23	至宝町南子供育成会	7,356	2,995
24	県営壬生住宅自治会	6,767	1,900
25	東下台育成会	12,871	2,582
26	落合子ども会育成会	8,015	648
27	ひばりヶ丘	2,793kg	本
28	星の宮育成会	6,269	454
29	幸町一丁目育成会	1,947	
30	幸町三丁目育成会	3,288	
31	栄町育成会	3,270	264
32	車塚育成会	7,466	1,176
33	仲通町育成会	9,370	1,651
34	安塚小学校PTA（児童会）	33,191	6,610
35	下台団地子供会育成会	3,900	
36	幸町四丁目育成会	3,405	
37	壬生寺保育園	7,350	1,946
38	羽生田小学校PTA	36,487	1,858
39	至宝北育成会	9,844	
40	上田子供育成会	19,444	1,396
41	緑町二丁目自治会	8,349	2,677
42	藤井小学校PTA	14,670	1,709
43	南犬飼中学校PTA	8,552	
44	弥生会（生活改善クラブ）	4,773	1,293
45	北小林子供会育成会	12,418	890
46	壬生中学校PTA（生徒会）	60,162	13,402
47	中泉子供育成会	9,282	1,250
48	鹿島クラブ	12,640	
49	今井自治会	3,570	8,954
50	馬場自治会	2,971	1,000
51	弥生会（幸町）	712	
52	睦作業所親睦会	6,315	11,455
53	安塚三自治会	9,725kg	2,026本
54	上新町育成会	2,880	400
55	睦小学校PTA	16,812	5,690
56	消費者友の会	751	3,854
57	国谷外道自治会第13班	1,886	600
58	壬生北剣道教室		2,200
59	新優ストアー		350
60	ゆうがお会		3,870
61	幸町二丁目自治会		4,350
62	落合自治会		4,550
63	ひまわり会（本郷）		700
64	城東町自治会		1,360
65	壬生中学校		5,242
66	壬生中学校PTA		17,686
67	ルネプラッツ		1,670
68	ひまわり会（スポーツ）		862
69	ひまわり会（文化部）		1,870
70	福和田自治会		419
71	壬生東小学校PTA		4,800
72	壬生北小児童会		1,757
73	第一化成（寮）		800
74	稲葉小PTA		1,700
75	城南自治会		286
	合計	560,028kg	156,864本

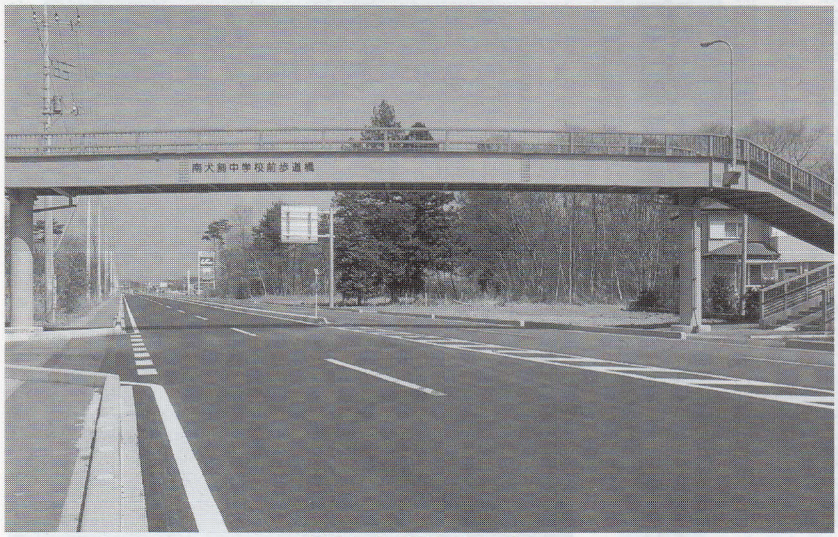
安塚地内の渋滞を緩和
安塚バイパスが開通

主要地方道宇都宮栃木線（通称：栃木街道）「安塚バイパス」の開通式が4月26日に行われ、清水町長、佐藤県議会議員、粂川町議会議長、鈴木道路整備促進期成同盟会栃木県協議会長（栃木市長）のほか、山岡衆議院議員や町・県関係者、用地協力者など約250名が出席しました。

開通式では、清水町長が「安塚バイパスの完成で、交通の円滑化と地域経済の発展が大いに期待されます。これを機に『夢と活力にあふれた緑園都市・みぶ』の実現に向け、さらなる努力を重ねていきたい」とあいさつ、関係者によるテープカットやくす玉割りの後、通り初めが行われました。

安塚バイパスは、栃木街道安塚地内の渋滞緩和などを目的に県栃木土木事務所が昭和61年度から整備を進めていたもので、区間は安塚の淀橋交差点と獨協医科大学病院北側までの3・1km、幅員は20mとなっています。

安塚バイパスの開通を祝い、（写真左より）鈴木道路整備促進期成同盟会県協議会長、清水町長、佐藤県議会議員、柿沼県土木部技監、山岡衆議院議員、山中宇都宮国道工事事務所長、小野栃木県警察本部交通部長によるテープカットが行われました。



開通した安塚バイパス

家庭の地震対策〈図解〉

いざというときの行動ヒント集

命を守る③

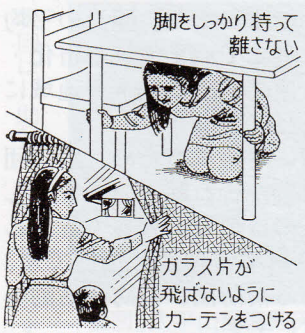
小・中学生のころの防災訓練で、地震発生の合図と同時に、皆いっせいに机の下に潜り込んだ経験はないでしょうか。地震で揺れている間に行う、この最も基本的な地震対策をもう一度思い出してください。

家庭の中でできる地震対策として、タンスや本棚、テレビなどの家財道具の固定があります。しかし、たとえ固定されていても、本棚に積まれている本や、茶ダンスに置かれている食器類など、飛び出しやすいものが多いと危険です。また、窓ガラスが割れて、破片が飛んでくるかもしれません。こういった"凶器"が多数存在する家の中で、揺れている間に動き回ってしまったらどうなるでしょう。頭や顔に物がぶつかったり、手や足を切ったりと大ケガの原因になります。家財道具の固定さえもしていなかったら、命を失うことにもなりかねません。

動き回らず机などの下に潜る

では、家の中で、大きな揺れを感じた場合、どのような行動をとればいいのでしょうか。グラッときたら、まず、机やテーブルの下に潜ります。そして、脚をしっかり持って離さないでください。机やテーブルのサイズが小さくて体が入らない場合は、頭だけでも保護しましょう。屋外での地震対策と同様に、肝心なのは落下物から頭を守ることです。机やテーブルがなければ、ベットの下などでもかまいません。自分のからだの入るスペースを確保しておきます。

また、窓ガラスなどの飛散防止対策には、専用フィルムの張り付けや網入りガラスの使用などがありますが、最も基本的な防止策としてカーテンの設置があります。ふだん何げなく使っているカーテンですが、その有無で、ガラス片の飛び方が大きく違ってくるのです。



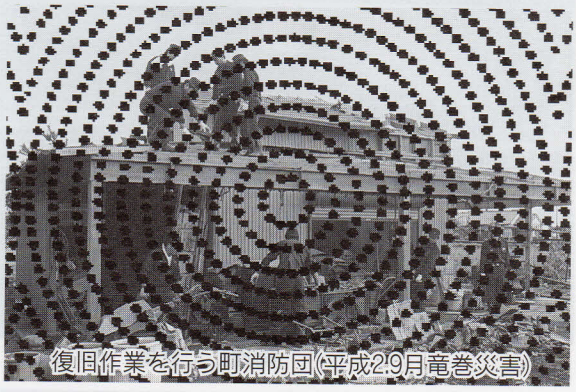
わたしたちのまちを守る消防団

消防団活動への理解と協力 そして参加を

災害や火災が起こったとき、すぐさま現場に駆けつけて、消防署員と一緒に救助や消火にあたるのが消防団です。

平成７年１月の阪神・淡路大震災でも、多くの消防団員が被災者の救助活動にあたるなど目覚ましい活躍をみせています。しかし、近年は団員数の減少や高齢化など、さまざまな課題も抱えています。団員は、ふだんはそれぞれ自分の仕事をもっている地域住民です。その住民の一人として、まちを守る一員として、皆さんの消防団活動への理解と参加をお願いします。

消防団は、消防署などが置かれていない地域では消防活動を全面的に担っています。また、消防署が置かれている地域でも、消火活動の支援などに活躍しているほか、災害が発生したときには大勢の消防団員が動員され、救助などにあたっています。阪神・淡路大震災でも、延べ７万人を超える消防団員が、救助・消火活動を行いました。



復旧作業を行う町消防団（平成2.9月竜巻災害）

有事に備えポンプ操法の技術を競う

町消防団（梁島安男団長・団員２０３名）の第15回ポンプ操法大会が４月21日、町総合運動場で開かれ、小型ポンプの部（８部）並びに自動車ポンプの部（７部）に分かれて、ポンプ操法の技術とスピードが競われました。

この大会は、４月に51名の新団員を迎えて、団員の士気高揚と消火技術の向上を図り、有事の際には、常備消防（石橋地区消防組合）と一体となった最善の消火活動ができるようにすることを目的として毎年実施されています。

団員たちは、この日のために４月７日の新団員訓練に始まり２週間にわたり毎日、夜７時から９時まで町総合運動場に集合し、常備消防（壬生分署、安塚分遣所）の指導のもと、訓練を重ねてきました。

成績

◇小型ポンプの部

優　勝　第２分団第５部（釜ケ渕、原坪、鹿島）

準優勝　第３分団第３部（中泉）

三　位　第１分団第３部（万町、上新町、壬生下馬木、西高野）

◇自動車ポンプの部

優　勝　第２分団第１部（稲葉下馬木、上町、下町）

準優勝　第３分団第１部（北小林、安塚地区、上長田、おもちゃのまち地区）

三　位　第２分団第３部（羽生田地区）

◎優良機関員

◇小型ポンプの部

・指揮者　荒川安男（第２分団第５部）

・１番員　梁島源智（第２分団第５部）

・２番員　佐藤久一（第２分団第５部）

・３番員　小林　宏（第２分団第５部）

◇自動車ポンプの部

・指揮者　田村優宗（第３分団第１部）

・１番員　神長寿幸（第２分団第１部）

・２番員　黒子敏充（第２分団第１部）

・３番員　大橋幸雄（第２分団第１部）

・４番員　大場　隆（第２分団第１部）

あなたも消防団に参加を

消防団の歴史

江戸幕府将軍吉宗の時代に、町奉行の大岡越前守が江戸につくったといわれる町人組織「町火消」が、消防団の始まりです。

地域には欠かせない存在である消防団ですが、ここ数年消防団員の数は減少傾向にあります。

平成７年４月１日現在、全国の消防団数は３,６３７団、消防団員数は９７万５,５１２人ですが、９年前の昭和61年に比べると団員数は約５％の減少です。また、団員の平均年齢が上昇し高齢化も進んでいます。都市化・サラリーマン化による連帯意識の低下や地域における若年層の減少などが原因です。

現在、これらの課題に対処するため、消防団活性化のさまざまな対策が行われています。しかし、もっとも大切なのは地域に暮らす皆さんの消防団、地域防災に対する理解と協力です。わたしたちのまちを守る消防団、消防団活動への理解と参加をお願いします。

手づくり郷土賞の記念碑を寄贈

壬生ロータリークラブ

壬生ロータリークラブ（大橋秀夫会長）では、4月3日、建設省の『平成7年度手づくり郷土賞歴史・文化部門』の認定を受けた「舟町通り」を顕彰する記念碑を町に寄贈されました。

手づくり郷土賞とは、地域の個性や魅力を生かした公園、道路、広場などを広く紹介し、個性豊かな地域づくりを推進することを目的として創立されたものです。

舟町通りは、「誇れるまちづくり事業」の一環として平成4年度から整備を行い、町並み景観を重視し、安全で快適な歩道を備えた道路として平成7年3月に完成しました。

なお、記念碑は高さ1m、一辺が50cmのさび石でできた立方体の上部を斜めに切られた形をしており、手づくり郷土賞の認定プレートが上部に埋め込まれています。

手づくり郷土賞の記念碑とロータリークラブの皆さん

入学式のようす（睦小学校）

新たなるスタート

まだ春を感じさせたばかりの陽気のなか、4月8日に町内の2中学校、9日には町内の8小学校で入学式が行われました。

新入学を迎えた980名（小学校426名、中学校554名）の新1年生は、優しい先輩たちに迎えられ、ちょっぴり緊張しながらも希望にあふれた学校生活をスタートしました。

資料館コーナー

郷土の人々（一）

今月から、シリーズごとに人物を紹介します。

「近世壬生の画人たち」

平出　雪耕（ひらいで　せっこう）

1749年（寛延二）～1823年（文政六）

幼名を秀継、字は玄通といい、雪耕、秀景などと号しました。寛延2年（1749）に西方村金井（西方町）に生まれました。

雪耕は、会津の画人金子祐玄に学んだといわれています。壬生藩画員（専属絵師）として出仕し、かたわら特技の医術をもって、多くの病人の救済にあたりました。

雪耕の門人には、世に関東の四大家の一人と称された、那須杉渡戸出身の高久靄崖や壬生藩家老の高須甘棠・助谷村の粂川祐景も門人の一人でした。

雪耕の作品については、高久靄崖が恩師を回想しているように、狩野派の因習に堕した時代の中で、次第に中国の宋時代への回帰がうかがえる。それは多分に精神的なものであろうとしている。作品が少ないので断定することは難しいと思いますが、そのへんに模索の様子がうかがえる作品であり、雪舟への思慕もかなり深かったとみられます。壬生町・豊栖院にある「雪耕山人の碑」には、京都地方の風景を訪ね歩いたり、「水墨の山水を善くす。その他人物、華卉、翎毛各々その法を得たり」とありますので、人物、草花、鳥獣すべてを描いたといいます。代表作に栃木市・太平山神社の星宮殿天井画極彩色「龍図」があります。

晩年は金井の生家に住んでいましたが、文政6年（1823）10月16日に75歳で没しました。菩提寺は西方町地福寺。

辞世

む意乃世やおもひハ無為の花紅葉

「龍図」太平山星宮殿天井画

次回は、助谷・粂川祐景翁です。

い広場

青春スケッチ 60

チャレンジ精神を忘れずに

安塚中央　川野邉　輝子さん

「フィットネスやエアロビクスなど体を動かすことが好きですね。そのほか、野球、サッカーなどの観戦にもよく出掛けます」と話す輝子さん、「休日は友人と買い物やカラオケに行ったり、読書をすることが多い」ということです。

現在、料理を勉強中の彼女、「チャレンジ精神を忘れずに、これからもゴルフなどいろいろなことをしてみたい」という意欲的なお嬢さんです。

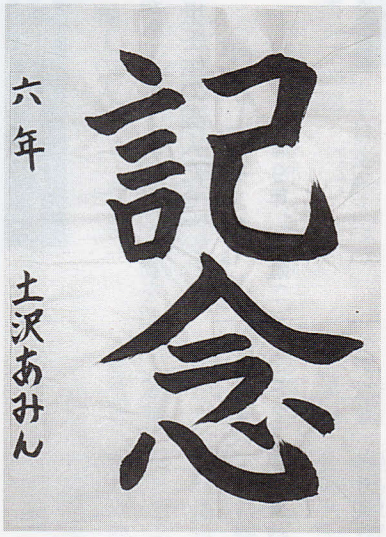
お達者カップル 88

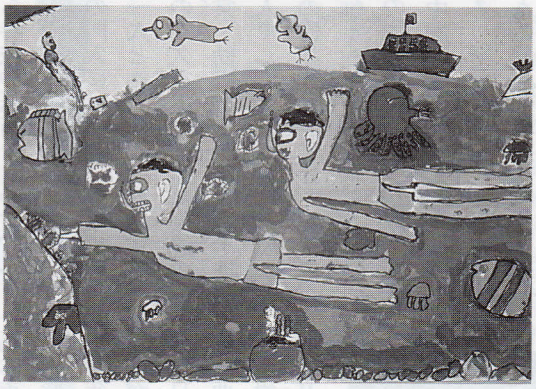
鹿島
田村　春吉さん（７９）
　　マツさん（７２）　夫妻

「農作業などで適度に体を動かしているのが健康の秘訣かもしれませんね」という田村さんご夫妻。

春吉さんは昭和６年に稲葉尋常高等小学校を卒業後、実家で農業に従事していましたが、昭和16年

私の作品





「海水よく」
安塚小学校４年
中　川　広　之

安塚小学校６年
土　澤　あみん

ふれあ

7月に召集により歩兵第4連隊に入隊、朝鮮の羅南へ渡りました。その後、昭和20年にトラック島で終戦を迎え、昭和21年1月に帰国、実家に戻ってから再び農業に従事しました。

その後、仲人さんのご紹介により、東原出身で昭和13年に稲葉尋常高等小学校を卒業後、実家で農業に従事していたマツさんと昭和22年に結婚し、お二人で農業を続け、「手伝い程度ですが、今でも息子と一緒に農業を続けています。もう50年以上農業をしていることになるんですね」とお二人は話していました。

お二人は10年以上ゲートボールを続けているそうで、「週に2回行われる練習には、ほとんど欠かさず出掛けている」ということです。また、お二人はカラオケが好きで、よくお友達とカラオケの練習をするそうです。そのほか旅行も好きだそうで、「老人会での旅行のほか、家族などと一緒に鬼怒川などの温泉地によく出掛けますね」と話していました。

長男ご夫婦、3人のお孫さんと一緒に住んでいるというお二人、「家族7人で毎日をにぎやかに楽しく暮らしています」と幸せそうに話してくださいました。

雲ひとつない青空のもと
歩け歩け奉仕大会開かれる

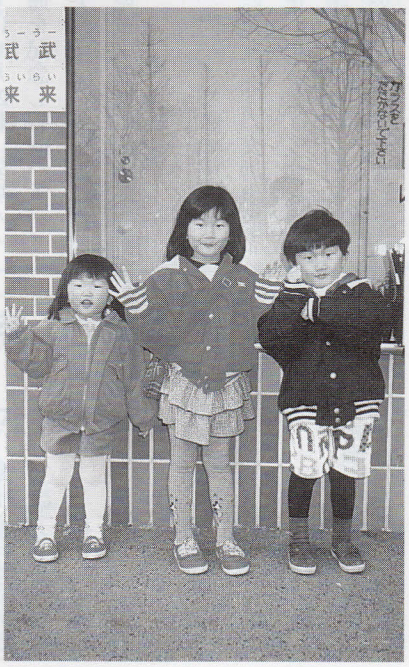
壬生ライオンズクラブ（関　広幸会長）主催による第14回壬生町青少年健全育成歩け歩け奉仕大会が4月29日、藤井小学校を発着点にして行われ、家族連れや小学生のグループなど約450名が参加しました。

この大会は、参加者がチャリティーに協力するスポンサー名の入ったワッペンシールをつけて歩き、そのPR代を町社会福祉協議会、（財）栃木県アイバンク、（財）栃木県盲導犬センターに寄付いたします。ウォークラリーに参加して歩くことがそのまま社会奉仕になる仕組みになっています。

雲ひとつない青空のもと、参加者たちは与えられたコマ図を頼りに、吾妻古墳を中心とした藤井地区約5・5kmのコースを歩き、心地よい汗を流しました。

青空のもと元気にスタート。

チビッ子アルバム



萌（もえ）ちゃん（6歳）中央・雷太（らいた）ちゃん（5歳）右・唯（ゆい）ちゃん（2歳）左

（父）伊藤　光則さん
（母）〃　貴子さん　（落　合）

お母さんから一言

いつまでも仲良く、つらいことにくじけない強い子になってほしい。

佑美（ゆうみ）ちゃん（1歳）

（父）千葉　和　則さん
（母）〃　佐知子さん　（おもちゃのまち）

お母さんから一言

元気で思いやりのある人になってね。

「チビッ子アルバム」に出てくれるお子さんを募集しています。ご希望の方は、写真に簡単なメッセージを添えて町企画財政課広報広聴係（☎82－1234　内線212）までお送りください。

交通安全を呼びかける

シートベルトの着用の徹底、若者の無謀運転の防止、子どもと高齢者の交通事故防止を重点運動とした春の交通安全運動が4月6日から15日まで実施されました。

本町においては、町交通安全協会をはじめとする各種団体の協力を得て、運動期間中、壬生交番前とおもちゃのまち交番前に交通指導センターを設置し、安全指導を行うほか、シートベルト・ヘルメットの正しい着用や踏切の安全な通行の街頭指導などを実施、そして新入学児童の初登校日の4月10日には、PTAの方の立哨に交じり町幹部職員による小・中学生への立哨指導も行われました。

また小学校全児童に『交通安全運動実施中』の緑のワッペンを配布し、交通安全思想の高揚に努めました。

交通事故は、いつ、どこで起こるか分かりません。一人ひとりが交通ルールとマナーを再度確認して、加害者にも被害者にもならないようにしましょう。

登校時の立哨指導を行う榎本教育長

無事故の願いを込め 黄色い帽子を贈る

児童代表に帽子を手渡す協議会の皆さん

栃木県明るい社会づくり協議会壬生支部（田中義一支部長）では4月3日、町教育委員会を通じて黄色い帽子423個（男子用208個、女子用215個）を町内8小学校の新入学児童に贈りました。

これは、新入学児童が交通事故に遭わないで健やかに成長することを願い、同支部活動の一環として毎年行われているものです。

無事故を願い 児童・生徒に記念品を贈る

壬生町交通安全協会

記念品を手渡す協会の皆さん

壬生町交通安全協会（坂田佐一郎会長）では4月25日、安塚バイパスの開通を記念して同バイパスの通る南犬飼地区の小・中学校、幼稚園の児童・生徒に記念品を贈りました。

これは、同バイパスの開通を祝うとともに児童生徒の交通事故を未然に防止しようと、安全を呼びかける標語の入ったノートとスティック型消しゴムを贈ったものです。

壬生町史普及版 「壬生の歴史」が完成

町教育委員会では、このほど「壬生の歴史」を発行しました。これは平成2年に完結し、学問的にも高い評価を得ている「壬生町史」の普及版として、小学校高学年や中学生、一般の方々を対象に編集されたものです。

第1章「壬生の夜明け」から第8章「壬生の民俗」まで約200ページにわたり、壬生の遺跡や史跡、歴史的事件、そして円仁初め郷土の偉人たちの活躍が簡潔、平易な文章で書かれカラー写真入りです。執筆は町内の社会科の先生の方が担当しました。

町教育委員会では、社会科の授業の副読本として活用、壬生の歴史を理解し郷土に誇りをもてる児童生徒を育てるため、小学校6年生、中学生全員に配布しました。

なお、来年度より平成11年までは新6年生に配布給与し、一般の方には実費（1、300円）で頒布しますので、町教育委員会までご連絡ください。

寄付

（社会福祉協議会）

（○数字は寄付回数）

金6万5千円①　福田　千勝様
金5千円①　鬼沢　一弘様
金28万6千653円⑯
壬生町老人クラブ連合会様
金1万4千638円⑧
壬生町歌謡会様
金10万円⑥
お花見実行委員会
（獨協医科大学病院看護部）様
金5万円⑫　壬生ライオンズクラブ様

戦没者を偲び 特別慰霊祭行われる

しめやかに行われた慰霊祭

壬生町慰霊碑実行委員会（佐藤三郎会長）主催による、慰霊碑建立20周年を記念した特別慰霊祭が4月6日に行われ、町遺族会、軍恩会、日傷会の関係者のほか、一般の方約４００名が出席しました。

壬生中央公民館で行われた記念式典では、先の対戦で祖国のために尊い生命を捧げた８００余柱の英霊に今日の平和と発展を感謝する佐藤会長の祭文奉上のほか、清水町長、粂川町議会議長、佐藤県議会議員などによる追悼の辞のあと、白菊の花を出席者全員で献花しました。

また、式典のあとに奉納演芸として詩舞や歌謡、奏楽が披露されたほか、剣道・銃剣道の奉納武道が壬生中学校武道館で行われました。

老いも若きも競技に熱中

下表町自治会（早乙女太平会長）では4月29日、第5回ファミリー体育祭を町南部運動場で行い、家族連れを中心とした自治会員約６００名が参加しました。

これは、会員相互の交流をはかることを目的に5年前から行われているもので、当日は赤、白にわかれ、借り物競争やパン食い競争などの競技に、子どもからお年寄りまで熱中し、楽しい一日を過ごしました。

おもちゃ博物館休館のおしらせ

おもちゃ博物館は館内燻蒸消毒のため次の期間中休館となります。

・7月1日(月)～5日(金)

天明釜の茶の湯を味わう家族連れ

三日月尊天大祭

大茶会などでにぎわう

壬生城主壬生家及び鳥居家の菩提所である常楽寺の三日月尊天大祭が４月３日に行われ、家族連れなど約８００名の人出でにぎわいました。

これは江戸時代から毎年４月３日に行われてるお祭りで、当日は大祈祷会、下野大福茶会などが催されました。

6月の納税等

●町県民税（1期及び全納）（納期限7月1日）

●国民年金（6月分）（納期限6月28日）

納期限間際は、納付窓口が大変込み合います。早めに納付しましょう。

まちのうごき

5月1日現在

総人口	39,852人	（ 4）
男	19,586人	（△38）
女	20,266人	（ 42）
世帯数	12,372世帯	（ 82）

（ ）内は前月比

文芸

文化協会文芸部選

短歌

スリッパに躓く夜のひとりごと
止めどなくして老いはくるらし
正田良次郎

枯れがれて八汐つつじの咲かざれば今年の庭はさびしかりけり
渡辺真夕美

飲み会の誘いもこの頃遠のきて
八時になれば床につく夫
荒川　綾子

汗ばみて過せし昨日は嘘のよう
今日はセーターを着重ねている
野口　富代

俳句

踏青や馴染みの原へ野球帽
広沢　ツヤ

戯れに揺らす吊橋水温む
深津　ハナ

ぶらんこに触れていて母となる娘
山木八重子

丹念に縁拭く嫗茗荷竹
石原　早苗

新緑のなか
多彩なイベントでにぎわう

萌えるような緑に包まれた“おもちゃ博物館、総合公園”を会場に、ゴールデンウィークを中心に多彩なイベントが催され、終日大ぜいの子どもたちの歓声が響きわたっていました。

おもちゃ博物館で行われた「日本の伝承玩具展」には昔を懐かしむ親子連れなどでにぎわっていました。

博物館前の広場では、五月晴れの下、すべり台などで、無邪気に遊ぶ子どもたちでにぎわいました。

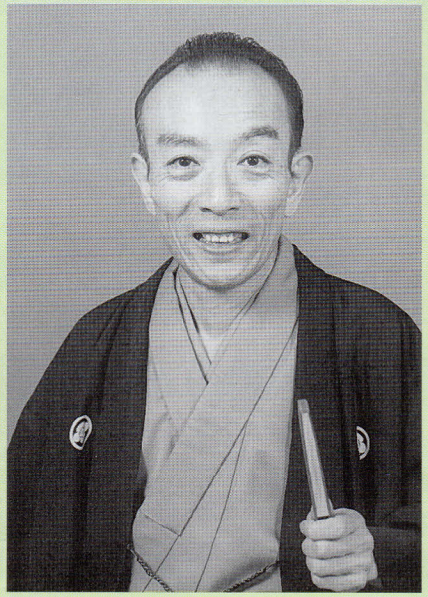
マリオの中に入って飛び跳ねて遊ぶ子どもたちでにぎわっていました。

模擬店コーナーでは、くじを引く子どもたちでにぎわうほか、特産のいちごなどが売られました。

春風を受けて優雅に泳ぐ鯉のぼり。子どもたちは、しっぽに捕まって大喜びでした。

総合公園を一周するロードトレイン壬雷号は、終日順番を待つ列が絶えませんでした。

三遊亭圓楽 柱家歌丸 二人会



◎日　時　7月13日(土)
　午後6時　開場
　午後6時30分　開演
◎会　場　壬生中央公民館大ホール
◎入場料　2,000円(全自由席)
※入場券は、壬生中央公民館、稲葉・南犬飼出張所、財団法人壬生町施設振興公社事務所で取り扱っています。
（未就学児の入場はできません）
◎主　催　財団法人壬生町施設振興公社
◎後　援　壬生町教育委員会
◎問合せ先　壬生中央公民館
☎82－0108
財団法人壬生町施設振興公社
☎86－7117